



# 2学年通信 「キャッチボール」

第6号 発行日 令和元年8月30日(金)



長い夏休みも終わり、1年間で一番長い2学期が始まりました。今年度から初日は始業式だけでなく授業もあり、いきなり現実に戻った感じがします。しかし、生徒たちは元気に1学期と変わらない生活を送っていました。

この夏、部活動では3年生が引退し、2年生中心の活動に切り替わった部が多いと思います。今までのように先輩についていだけでなく、2年生一人一人がリーダーとしての自覚をもって活動して欲しいと思います。部活動は一部の人だけが頑張るところではありません。部員全員が意識高く活動することによって、よい結果やよい思いを体験することにつながると思います。これから新人戦が始まります。どの部活も頑張ってください。また、生徒会本部役員も3年生から引き継ぐ時期となり、生徒会本部役員選挙が始まります。学校を過ごしやすいするためには生徒会の力は欠かせません。ぜひ積極的に立候補してもらいたいと思います。立候補の締め切りは9月3日(火)の昼休みまでです。

9月は職場体験学習、授業参観と行事が続きます。保護者の皆様にはご理解とご協力をいただく場面が多い2学期となりますが、どうぞよろしく願いいたします。(2年学年主任)



## 2学期 主な予定

### \* 生徒会本部役員選挙

公示 8月29日(木)～9月3日(火)

立会演説会 9月25日(水)

\* 職場体験学習 9月10日(火)・11日(水)

\* 新人戦 9月7日(土)～

\* 中間テスト 10月3日(木)

\* 学年リハーサル 10月11日(金)

\* 蒼依祭 10月19日(土)

〈振替休日 10月21日(月)〉

- \* 期末テスト 11月28日(木)・29日(金)
- \* 三者面談 12月17日(火)～20日(金)
- \* 依知中ふれあいDAY 12月24日(火) AM
- \* 冬休み 12月25日(水)～1月7日(火)



## 「 LGBT ～多様な性について～ 」 夏の職員研修より

- L レズビアン (女性同性愛者)
- G ゲイ (男性同性愛者)
- B バイセクシャル (両性愛者)
- T トランスジェンダー (生まれた時のからだの性と自分自身の性の認識が異なる)

社会では「LGBT」についてどのくらい理解されているのでしょうか。国内のLGBTの人口比率は約5～8% (約13人～20人に1人くらい)、いる可能性があると言われていたそうです。学校で考えてみると、職員を含め35～40人くらいの方がLGBTであるということになります。そんな身近な存在であるのに、これまで我々職員は知識を得る機会があまりありませんでした。「ホモ・オカマ・おとこおんな・・・」様々な差別用語が教室を飛び交うこともありました。そのような言葉で傷ついてきた生徒がたくさんいるということです。

今回の研修では、「ReBit(リビット)」という団体の方に来ていただき、お話を聞くことができました。

お話の中では、性の在り方は様々で、①生まれた時のからだの性 ②自分が認識している性③恋愛の対象となる性 ④服装や行動・振る舞いなどの表現する性と、性の在り方にはこの4つの要素が組み合わさって、その人の性が構成されるとありました。

「からだは女性、しかし自分は男性に近いと感じ、ボーイッシュな服装を好み、好きになる人は女性。」「からだは男性、気持ちも男性だけどきれいになりたい、男子グループの中には居づらい、好きになるのは女性。」性の在り方はとても複雑なものだと感じました。

自分以外の人の性は、見た目だけでは判断できないということになります。見えないだけ、気付かないだけで、人の数だけ性の在り方も様々であるということです。そしてその性の在り方には正常も異常もないのです。男は男、女は女、それが「ふつう」となっている現状。「ふつう」とは何なのでしょう。数が多いほうが「ふつう」で正しく、少数派は「ふつうでない」異常なことなのでしょうか？お話を聞いていてどちらも「そのまんま」でよいと思いました。

人と違った行動をすると、変な目で見られたりからかわれたり、いじめられたり暴力を受けたりして、「自分は人と違う」と悩み、自分の存在を否定してしまう人も多いということでした。人と違うことに敏感になってしまい、自分の本当の気持ちに蓋をしてしまっていて自分らしく生きることができない。そんな人がたくさんいるということです。

LGBTに関する正しい知識をきちんと理解し、「ちがいを認め、「そのままでもいいよ」「大丈夫だよ」と伝えられる人でありたいと感じました。そして、悩んでいる人が「このままでいいんだ」と自分自身を認め、安心して生活できる学校・社会でありたいと感じました。

中学2年生、思春期真っ盛りの生徒たちです。「性」についてはデリケートな問題でもあります。様々な場面で考える機会が、授業だけでなく生活の場面などの身近なところにあると思います。一人で悩まないで生活できる、「個」を大切に受け止められる環境を作っていきたいと思いました。